

## [総合的な学習の時間]

# 未来を見つめ、夢をもち努力する子どもを育成する キャリア教育の在り方

－ 6年「12歳のハローワーク ～なぜ勉強するのか～」の実践－

関 和則\*

### 1 はじめに

「キャリア教育」が文部科学行政関連の審議会報告等で、文言として初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（1999年）である。その基本テーマは、学校種間における接続だけでなく、「学校教育と職業生活との接続」の改善も視野に入れたものであり、学校教育における改善を図るには、小学校段階から発達段階に応じて「キャリア教育」を実施する必要があると提言されている。また、国立教育政策研究所生徒指導研究センターからは、「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」が出され、進路状況の変化、生活体験・社会体験等の機会の喪失、経済的な豊かさの実現と価値観の多様化など子どもたちの進路や発達をめぐる環境の変化が明らかにされ、小学校段階から系統性をもたせたキャリア教育の実施の重要性は明確である。

このような状況の中、平成17年度6年生を担当した。自分の将来に夢を膨らませたり、具体的な職業について興味をもち始めたりする時期である。また、課外活動や児童会活動においても、全校をリードしていく中で、成就感や自己有用感を得たりする学年でもある。しかし、児童の実態は、自分の夢は漠然としてはもってはいるものの、どのように実現していくのかがわからないという状況であった。

そこで、様々な人との出会いを繰り返し、その人から生き様や人となりを感じることで自己の生き方を考えることができたり、実際に職業を体験したり、調べたりすることで職業に対する認識を高めていくことができたりすると考え、本実践を行った。また、小学校段階における「キャリア教育」の実践も増えてきている中、小学校・中学校・高等学校の連携による一貫した取組の推進がより一層大切となってくる。この学習をした児童が中学校へ進学し、進路決定の場面に立ったときにどのようなことを考え、進路決定していくのかを明らかにしたい。

### 2 研究の目的

将来に夢と希望をもち、努力する子どもを育むための活動構成と支援のあり方を、本実践を通して検証を試みる。また、本実践が中学校段階に進んだ子どもたちにどのように影響しているか追跡調査をすることによって、望ましい「職業観」や「勤労観」を形成していくためには、小学校段階でどのような実践が有効なのかを明らかにする。

### 3 研究の内容

(1) 子どもに「職業観」や「勤労観」を育み、自分の生き方を繰り返し問い続けていく活動構成と支援のあり方  
総合的な学習の時間「12歳のハローワーク～なぜ勉強するのか～」の実践を通して、児童自身が自分の生き方を問い続けていくための活動構成と支援の有効性を明らかにする。

(2) 小学校と中学校の連携を意識し、望ましい「職業観」や「勤労観」を育むための実践の有効性と改善点の検証  
卒業生の追跡調査を実施し、本学習がどのように進路選択の場面に影響しているのかを検証することで、小学校におけるキャリア教育の有効性と中学校との連携を明らかにする。

### 4 実践の概要（K小学校 第6学年「12歳のハローワーク ～なぜ勉強するのか～」 児童10人）

(1) 子どもが将来の自分の生き方について問い続けていく活動の構成と支援のあり方

---

\* 南魚沼市立六日町小学校

## ① 年間の活動構想

	1 学期	2 学期	3 学期
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「なぜ勉強するのか」作文を書く。</li> <li>○身近な人にインタビュー活動をする。</li> <li>○修学旅行先でのインタビュー活動をする。</li> <li>○なりたいと思う職業について調べる。</li> <li>○文部科学大臣に、「なぜ勉強するのか」について自分の意見を手紙にまとめ、考えを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○たくさんの職業の人にインタビュー活動をする。</li> <li>○伝統を守り続ける味噌工場の社長に出会い、話を聞く。</li> <li>○職場体験をし、実際の仕事体験や働く人々へのインタビュー活動、まとめ振り返りの作文を書く。</li> <li>○学習発表会でのパネルディスカッションにおいて、「なぜ勉強するのか」についてのそれぞれの考えを述べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○冬休みに職場体験をする。</li> <li>○友達と意見交換をしながら、自分なりの考えをまとめる。</li> <li>○「なぜ勉強するのか」について卒業論文を書く。</li> </ul>

## ② 活動前の児童の意識

まず、児童に「なぜ勉強するのか？」と問いかけ、一人一人が自分の考えを作文に書いた。ここでは、児童の考えが作文に表れるように、どんなことを書いてもいいという約束をした。予想通り「好きではないけれど、自分の将来のために」「いい会社に入るために」「自分では考えたことはなく、人に言われるがままにしている。」「大嫌いで、できることならばしたくない」といった多様な考えが出てきた。児童の意識にある「勉強」とは、学校での「勉強」、いわゆる国語や算数などといった教科のことを指していることが分かった。また、漠然としてはいるものの、児童は自分の将来を見つめて学習していることも分かった。しかし、漠然とし過ぎていたり、正しい「職業観」をもていなかったりするということが分かった。

## 【児童の作文より】

- わたしは勉強が大嫌いです。みんなは「働くためにとか、将来のために。」などと言う。私もそう思うけど、勉強なんかいらぬ。お母さんは「勉強は大切。」と言うけれど、何がそんなに大切なのかよく分からない。勉強も大切だとは思いますが、でもやっぱりわたしは勉強が嫌いです。
- ほくは、勉強は将来役立つからやっています。受験競争を勝ち抜いていい大学に入って、いい会社に入り、お金をたくさんもらえるようになりたいです。

そこで、互いの作文を読み合って、友達の考えを知る機会を設けた。自分とは正反対の意見をもっていることに驚いたり、自分の心の奥底にある気持ちに気づいたりする児童が現れた。この後「なぜ勉強するのか？」についてたくさんの人の意見を聞いてみようという投げかけ、様々な職業の方に出会うことや様々な考えや価値観にふれることをねらった。

## ③ インタビュー活動

まず身近な人（家族）の仕事に対する思いや苦勞を知るためにインタビュー活動を行っていった。そこで、今まで気づけなかった家族の仕事の様子や思いにふれることができた。

## 【児童の作文より】

- お母さんにインタビューをして、家にいる時のお母さんのことは分かりますが、職場でのお母さんのことは知らなかったのがびっくりしました。いつもいろいろなことを考えながら仕事をしているのだと思いました。うれしい時、悲しい時も仕事をしているお母さんはすごいと思いました。友達やお母さんにインタビューをして、ほくは将来のために勉強や生活を一生懸命がんばりたいと思いました。

この活動により、普段は考えたこともなかった家族の思いにふれ、自分の生き方を見直すきっかけとなった児童が多くいた。また、児童の活動は、身近な家族へのインタビューから、地域の人、様々な職種の方へのインタビューへと広がりを見せた。地域の方へのインタビュー活動を通して、「職業」や「働くこと」が児童にとって少し身近なものになり、「将来なりたい職業」へのあこがれを強めていった。また、「なぜ勉強するのか」についても多様な価値観にふれることができた。

#### ④ さまざまな職種の方に出会う

様々な職業にふれたり、職業を調べたりしながら「仕事」に対するあこがれや知識をもち始めた児童に「自分の信じた道をとことん追究する人」「自分が好きなことに人生をかける人」に出会わせたいと考え、「仕事そのもの」だけでなく、「そこに生きる人の生きざま」を感じ、学んでほしいとねらった。そこで、小さな味噌工場で伝統の味を守る社長Nさんに出会う機会を設定した。児童の「社長に会えるチャンスなんてめったにないよ」といった興味や「社長さんは、実際の味噌作りをしないで、パソコンに向かっているに違いない」といった予想とは大きくかけ離れた社長Nさんの姿を児童は目の当たりにした。そこには伝統の味を引き継ぎ、守り、後輩に伝えていこうと、毎日味噌作りの勉強に必死に励む姿があった。「社長」という響きに一種の憧れのようなものを抱いていた児童であったが、実際に話を伺う中で社長Nさんの生きざまや人となりに触れ、たくさんのことを学ぶことができた。自分のできることを必死にやりぬくこと、自分が輝く道で力を発揮することのすばらしさといった「勤労観」を肌で感じ、学ぶことができた。

【児童の作文より】

社長さんが勉強嫌いだったことにすごくビックリしました。私も勉強は嫌いです。でもNさんはどうして社長になれたのかを考えました。やっぱり「努力」が大切なのだと思います。学校の勉強は嫌いだったけれど仕事場ではちゃんと仕事をしていたのだと思います。Nさんは「仕事は生きていくため、お金のためにする。」と話されていました。生きていくためならどうしてもやらなければならない。だからNさんは仕事場でたくさん勉強をしたのではないかと思います。でも仕事はつらいことです。我慢しなければいけません。学校もいやなことがたくさんあります。毎日している勉強もその一つです。だから我慢することも勉強の一つの要素だと思いました。

#### ⑤ 職場体験

職業についての調べ活動や様々な職種の方との出会いを繰り返していくうちに、児童は興味のある仕事を実際に体験してみたいという願いをもっていた。そこで、自分の夢と関連がある訪問先を探し、1日職場体験をする計画を立てた。訪問先には、実際に仕事を体験させていただけるようお願いをした。10人という人数であったため、一人一人の希望にそった訪問先に行くことができた。寿司職人、パティシエ、遺跡発掘、学芸員、ドッグトレーナー、スポーツ店の店員など職種も様々であった。当日は朝から夕方まで学校を離れての活動となった。実際に仕事を体験することを通して、児童の考えに広がりや深まりが見えた。

【児童の作文より】

私は「勉強なんかいらぬ」と思っていました。でも6年生の総合の勉強で「勉強は大切」と思い始めました。今日の職場訪問でさらにそう思いました。総合の勉強を始めてから、めんどくさいこともあきらめないで最後までがんばっています。それが成長したことだと思います。これからもいろいろなことをがんばって、あきらめないで最後までやりたいです。これからまだまだたくさんのことにチャレンジし続けていきたいです。今日の職場訪問でまだまだ成長したことはあると思うけれども…。私が一番成長したことは、この2つだと思います。今も一生懸命にがんばっています。

ぼくは、春に勉強は自分のためにあるとずっと思っていました。自分の将来や自分が生きていくためのものだと思っていました。しかし、Fドッグスクールに行くとぼくは学びました。勉強は、自分のためだけでなく、いろいろな人のためにすることに気づきました。Fさんは犬を飼っている人、家族のために一生懸命働いていました。この仕事だけではなく、他の仕事も周りの人たちの役に立っています。でもその仕事をするためにも、いろいろな勉強が必要になります。だから人は勉強が必要だと思っています。勉強は人生でずっとやっていくものだと思います。

様々な職種の訪問先であったが、どの職業の人でも自分の仕事に責任とプライドをもっていることに気づくことができた。また、インタビュー活動だけでは知ることができなかった「働くことの意味」や「そこに働く人の生きざまや人となり」は、児童の「職業観・勤労観」の形成に大きく影響していった。それだけではなく、今の自分の生き方を考え、よりよく生きようとする児童の姿を読みとることができた。



写真 職場体験での遺跡発掘作業

### ⑥ 学習発表会でのパネルディスカッション

10月下旬に、これまでの体験と学びを発表する場として、学習発表会が設定されていた。そこは、保護者や地域の方々への貴重な発表の場となる。6年生は体験を通して形成していった自分の考えを、一人一人がパネラーとなり発表していった。これまでの活動を振り返り、4月の考えからの変容を明らかにすること、その変容に深く影響した体験や人との出会いを関連付けることを意識させた。そのことにより自分の活動を価値ある体験として意味付けさせることをねらった。また、保護者や地域の方々からの質問や意見をもらうことにより、さらに追究意欲を高めていくことができた。

### ⑦ 自分の考えを卒業論文にまとめる

1年間の活動を通して「なぜ勉強するのだろうか」について考えてきた。インタビュー活動や職場体験で真剣に仕事を取り組む大人たちの姿や仕事に対する価値観にふれたこと、また、友達と意見交換を何回も繰り返したことによって、児童一人一人の考えが形成されていった。

1年間の活動を振り返っての卒業論文では、以下のような記述があった。

- ・「なぜ勉強するのだろうか」と1年間考えてきました。12歳でのぼくの考えは、人として生きていくためだと思います。その中で学び続けることは大切なことだと思います。
  - ・勉強はあまり好きではないけれど、大人になっても勉強は続きます。だから、今できることをしっかりとやっていきたいです。
  - ・勉強とは、自分の夢のため、そして人の役に立つ人間になるためにするのです。これからも、勉強とは何かということを考え続けていきたいです。そして、自分の答えを出したいです。
  - ・ぼくは、やっぱり勉強はきらいです。でも、自分がつきたい職業につくためにはやっぱり勉強が必要です。だから、自分の夢をかなえるために、苦手な勉強もがんばっていきます。メジャーリーガーになりたいので、中学校に行ったら英語は特にがんばります。
  - ・将来、自分のやりたいことができるのが幸せだと思います。だから、自分の可能性を広げていくために、今はしっかり勉強していきます。
- いろいろな人にインタビューをしてみて、共通点があることに気がきました。それは、どんな仕事をしている人でも、夢を未来へつなげるために勉強したということです。自分のつきたい職業が見つかった時に有利な状況にいられるように、勉強したり、いろいろなことを経験したりすることが大切だと思いました。私は自分の夢を実現したいので勉強をがんばります。

児童の卒業論文からは、将来の夢を実現させるために、今、何をすべきなのかといった自己の生き方を考える姿が多く見られた。これは職場体験やインタビュー活動を通して、自分の仕事にプライドをもっていきいきと働く大人の姿に心打たれたことに起因していた。

### (2) 小学校と中学校の連携を意識し、望ましい「職業観」や「勤労観」を育むための実践の有効性と改善点の検証

中学校では、進路指導と関連させた総合的な学習の時間におけるキャリア教育の実践は数多く見られる。そこで、中学校との連携を視野に入れて、小学校段階におけるキャリア教育では、どのようなことを大切にしながら「職業観や勤労観」を育ていけばよいのかを明らかにしたいと考えた。そこで、中学2年になった9月にアンケート調査を行った。アンケートの内容と結果は以下のとおりである。(対象10人)

**Q1** 小学校で取り組んだ「なぜ勉強するのか？」の学習は、現在の自分の生活に影響していますか。どんな点で影響していますか。

「はい」…8人      「いいえ」…1人      「どちらとも言えない」…1人

〈その理由〉

- ・夢がはっきりしている。(3人)
- ・将来の自分の夢がはっきりしていて、今もそれに向かってがんばれている。(2人)
- ・勉強するための目標ができて、勉強するのにも張り合いが出る。(2人)
- ・月日経って夢は変わったけれど、勉強が大切であることは変わらない。(1人)

「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した理由として、「夢と自分の成績がかけ離れ過ぎている。」ということや「自分の適性がよく分からない。」ということが挙げられた。

Q2 小学校で取り組んだ「なぜ勉強するのか？」の学習は、中学校での職場体験活動や進路選択に役立ちますか？  
どんな点で役立ちそうですか

「はい」…8人 「いいえ」…1人 「どちらとも言えない」…1人

〈役立ちそうな点〉

- ・進路選択をする時に、小学校の時の勉強を思い出せば進路が選びやすいと思う。(4人)
- ・早いうちに将来のことを考えられた。(2人)
- ・実際に中学校でも「職場訪問」をしていて、小学校の時とは違う職種も体験できて進路選択の幅が広がっている(1人)
- ・中学校での職場訪問活動でどんなことをするのが分かり、スムーズに動ける。(1人)

「いいえ」と答えた回答に、「中学校でも小学校と同じような活動をしている。」という理由が挙げられている。

Q3 自分の将来が楽しみですか。

「はい」…9人 「いいえ」…0人 「どちらとも言えない」…1人

〈記述〉

- ・自分の特技を活かせる仕事、好きな仕事につけたらいいと思う。(4人)
- ・自分の夢をかなえたい。(3人)
- ・まだ将来のことが具体的に決まっていなくても、将来の夢を考えることが楽しい。(1人)
- ・仕事をするには責任重大だから少し不安だけど、仕事をするには楽しそう。(1人)

Q4 進路選択の場面で、どのようなことを考え、決定していこうと考えますか。

〈記述〉

- ・自分に合う職業を見つける。 ・目指す仕事にかかわる学習ができる学校に行き、夢を追いかけたい。
- ・自分の才能を活かせる道を見つける。 ・自分に合ったレベルを探して、自分を高められるようにと考える。

Q5 自分の夢や進路選択にかかわって、小学校でどのような学習(活動)をしておきたかったですか。

〈記述〉

- ・数多く職場体験をしながら、そこで働いている人の話を聞きたかった。
- ・いろいろな職業について、もっと調べたかった。
- ・今になってみると、進路決定を間近にしている中学生の話も聞くとうよかった。

## 5 結果と考察

### (1) 活動構成と支援のあり方に関わって

① 様々な職種の人に話を聞いたり、友達との意見交換を繰り返したりすることで、自己の生き方を考えた子ども  
これまで紹介してきたように、たくさんの人との出会いやインタビュー活動を通して、自分の夢の実現に向けて、子どもの意識が変容し、高まってきたことは明らかである。これはより多くの人とのかかわり、さまざまな価値観にふれながら、自分の考えを形成していったからだと思われる。職種はそれぞれ違っていても、仕事に対する情熱や責任は同じであるということに気づき、児童の中に「職業観」・「勤労観」をもたせることにもつながったのであろう。将来の自分の姿を見つめながら、今の自分の生き方を考える児童の姿は、まさに総合的な学習の時間における「キャリア教育」のねらいに近づけた。

### ② 価値ある本物体験をすることで、夢をもち努力することの大切さを知った子ども

児童の中に「職業観」・「勤労観」を育むには、実際にその仕事を体験することが大切であることが分かった。その仕事が誰のために、どんな役割を担っているのかを知ることができたからである。また、仕事に正対し、努力し続ける大人たちの姿にふれることができた。このことから自分の夢と今の自分の姿を結びつけながら、自分ができることを努力し続けようと考えた児童が多く見られた。価値ある体験により実感を伴った児童の姿の表れであると捉えることができる。

## (2) 小・中連携にかかわって

### ① 卒業後も続く夢の実現への意欲

アンケート結果から小学校段階での「キャリア教育」の有効性は明らかである。小学校段階から職業についての知識をもつことで、今、何をすればよいのか、何をがんばればよいのかがはっきりしてくる。また、夢を実現するための努力が内発的な意欲として表れている。このように子どもたちの心に今も小学校時の活動が残っていることは、間接的ではあるが進路指導をする中学校へのつながりをつくることができたと捉えることができる。進路選択の土台を築くことができた。

### ② 小学校段階の「キャリア教育」で大切にすること

アンケートから児童がもっとやりたかった活動として一番多かったのは、「職場体験」であった。その仕事を体験することで、仕事そのものへの関心が高まるのは確かである。しかし、児童が当時、書き綴った作文の中には、そこでの人との出会いや人の生きざまに心揺らした記述が多かった。つまり小学校段階においては、人の生き方に学ぶという視点に重点を置きながら活動を構成していくことが大切であると考え。そういった点では、本実践では職場体験活動が1回しかなく、児童の思いを満たしてやれなかった。さまざまな職種を体験し、様々な人とかわること、また、同じ人と繰り返しかわることのどちらにしても子どもたちにとっては価値があるものである。

アンケートの中に、夢と現実の自分の姿にズレを感じている回答や「実際に進路決定を現実のものとする中学生の話聞いてみたい」という回答があった。これは小学校段階における「キャリア教育」と中学校段階における「キャリア教育」とのつながりや系統性という点で問題を投げかけている。小学校段階では、夢や希望を膨らませながら、学ぶ意欲や働くことの意味を児童の中に身に付けることを大切にしていき、自我に目覚める中学校段階では、自分の適性や能力を理解させながら、現実問題として働くことや学ぶことについて、より具体的な追求活動が大切になってくると考える。

## 6 おわりに

「自己肯定感・自己有用感をもち、よりよく生きていこうとする」児童の育成という点でのキャリア教育の有効性は、本実践からも明らかになった。小学校段階はまさにその内発的な意欲の向上や夢や希望、憧れる自己イメージの向上を大切にしていく段階である。総合的な学習の時間だけでなく、全教育活動を関連付けた教育課程の編成が、より一層必要となってくる。また中学校区における小・中学校の連携面では、具体的な指導計画の作成や共通の教材の開発等も今後さらに重要となってくる。まだまだ未開発な部分が多く残されているが、大きな可能性がある分野であるので、今後も実践を積み重ねていきたい。

### 〈参考文献〉

- 1) 国立教育政策研究所生徒指導センター：『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について [調査研究報告書]』 2002
- 2) 村上 龍：『13歳のハローワーク』 幻冬社 2003
- 3) 文部科学省：『キャリア教育推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』 2004
- 4) 文部科学省：『キャリア教育推進に向けて』 2005